

榮光

757号

2024年11・12月
日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都大田区田園調布
3-34-18
電話 03-3721-2811
FAX 03-3721-2814
<https://den-church.jp/>

低さの神

フィリピの信徒への手紙二章一〜一節

牧師 高橋和人

アドベント・待降節第二主日を迎えました。会堂の中でも様々な準備が進んでいます。クリスマスにふさわしく整えられる時になります。その中で、わたしたちのクリスマスが同じ思いで迎えられることを願っています。と申しますのは、今、同じ思いとなること、どんなに困難なことになっているか、壁に突き当たることがあまりにも多いことを見聞きするからです。

人の世界に大きくひびが入っている。あらゆるところに亀裂が生まれ、それが枝分かれし、いたるところに入り込んでいきます。国や民族からはじまり、主張や発想、さらには人同士、友人、教会、家族、にも入り込みます。そして、自分自身にも、ひび割れた思いが入り込みます。

今日の聖書の個所のフィリピの信徒への手紙二章二節で、パウロは、教会に対して「同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、

思いを一つにして欲しい」と願っています。それはパウロが教会でもひびの入る経験をしてきたからです。

人と人との間がひび割れている事態。これを、修復するには、三節に記されているように、「何事も、利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分より優れた者と考え」他人のことを考えることです。実際にこれができたら、ひび割れが克服できるように思えるものです。

これを自分に当てはめると、自分にはどれほど欠けていることが分かります。それどころか、何かひびが入るようなことが起こるときには、むしろ自分の心がむき出しなっています。虚栄心と利己心によって、自分にこだわり、赦せない思いが先に立っている、荒れた心になってしまおうのです。

ひび割れているところに必要なことは、いやされる希望を持つことです。葉が塗られる

ように手当がなされ、痛みが治まる時が来るという希望です。それがなければ、ささくれた痛みによって心は闇に覆われてしまいます。光を失っているならば、光を取り戻さねばなりません。クリスマスはその光になります。その光は五節で「キリスト・イエスにも見られるものです。」と書かれています。キリストがわたしたちに見せておられることです。神と一つであるお方、その姿を表されるお方、そのお方から見えてくるものがあります。クリスマスはそれが自分のことも照らすことが分かる時です。

キリスト・イエスを見つめる時に、そこに見えてくるものがあって、それを受け止めるなら、その光を受けることになります。「互いにこのことを心がけなさい」と言われます。心がけるといえるのは、しっかりと見つめ、考え続けることです。

するとイエス・キリストから見えてくるものが六節以下に語られます。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。(二:七)」

ここにクリスマスの光を見ることになりました。これは讃美歌であったと考えられています。いつでも口ずさむことができたのです。そして声をあわせて歌うことができたのです。喜びに満ちた讃美歌です。しかしその内容は最初から驚くべきものです。

まず、「神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず」と、